



Sun N1 System Manager 1.1 ご使 用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-4170
2005 年 9 月

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、N1、Sun Fire、JDK は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。Netscape Navigator および Mozilla は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標および登録商標です。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun N1 System Manager 1.1 Release Notes

Part No: 819-2667



050925@13215



目次

はじめに 7

1 Sun N1 System Manager 1.1 の問題点	11
機能およびソフトウェアのサポートについて	11
Sun N1 System Manager 1.1 におけるジョブ照会の動作	12
ISO ファイルからの SUSE Linux Enterprise Server 9 SP1 OS ディストリビューションのコピー	13
文書の記述訂正	14
コマンド行のヘルプ	14
サイト計画の手引き	14
管理ガイド	15
工場出荷時のデフォルトポーリング間隔値に誤りがある	16
N1 System Manager のインストールに関する問題点	16
Sun Fire X4100 および X4200 サーバーへの N1 System Manager のインストールが失敗することがある (6284696)	16
外付け DVD-ROM による OS ディストリビューションの作成に失敗する (6299514)	18
セキュリティに関する問題点	19
ブラウザインタフェースセッションがタイムアウトしない (6222506)	19
検出に関する問題点	19
Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーでの、「ドライバを検出できません」という紛らわしいエラーメッセージが検出される (6299780)	19
SSH 資格が構成されていて、IPMI 資格が構成されていないと、Sun Fire V20z や V40z サーバーの検出に失敗する (6307349)	19
OS プロビジョニングに関する問題点	20
Red Hat や SUSE Linux を配備できない	20

Red Hat Linux 3.0 Update 2 の OS 配備が停止して対話モードになることがある	21
「OS プロファイルのロード」ウィザードの「サーバー以外」フィールドが機能しない (6298874)	21
ホスト名に関して「OS プロファイルのロード」ウィザードが明瞭でない (6308375)	21
SPARC マシンに N1 System Manager をインストールしたあとのマシンの再起動で DHCP が機能しない (6314895)	21
インタフェースに関する問題	22
サーバー間で管理 IP アドレスを交換したときのサーバー詳細が不正 (6196399)	22
「戻る」ボタンを使用すると、ブラウザインタフェースの同期が失われる (6215298)	22
Solaris 管理サーバーから Solaris OS ディストリビューションをロードすると、「prom_panic」エラーになる (6307571)	22
コンソールウィンドウにシリアルコンソールメッセージの最後の行が表示されない (6308148)	23
シリアルコンソールアクセスで SSHv1 のみサポートされる (6309107)	23
インストールされている Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4.0 Update 1 OS がサーバー表に正しく表示されない (6309253)	23
プライベート管理ネットワーク上で、ブラウザインタフェースの Web コンソール機能が使用できない (6316139)	23
Sun Fire X4100 や Sun Fire X4200 サーバーのシリアルコンソール機能で断続的に問題が発生する (6316175)	24
管理サーバーの再起動後、サーバー表の表示に非常に時間がかかる (6315022)	24
シリアルコンソール機能を使用するには、Java Plugin 1.2 以降がインストールされている必要がある (6315615)	24
ファームウェア更新に関する問題点	24
N1 System Manager で、互換性のないファームウェアをデュアルコアの Sun Fire V20z または Sun Fire V40z サーバーへ配備できる (6296404)	25
OS アップデートに関する問題点	25
Solaris の OS アップデートに失敗すると、以降の OS アップデートができないことがある (6310032)	25
ファイル名とパッケージ名が異なると、admin ファイルを必要とする Solaris アップデートをアンインストールできない (6313778)	25
監視に関する問題点	26
指定した IP の古い SSH キーエントリがあるために OS 監視を初期化できない (6208006)	26
アップデートジョブ作成のエラーメッセージに十分な情報が含まれていない (6230630)	26
show server コマンドで unmonitored や unknown フィルタを使用できない (6240297)	26

ハードウェアの健全性監視値の Unmonitored で絞り込みを行えない
(6240368) 27

通知の説明でアポストロフィを使用できない (6242713) 27

ジョブの完了後も、ジョブの実行中を表す時計アイコンが残る (6262603) 27

OS リソースの健全性ステータスのポーリングが、ユーザーの指定したポーリング
値に従って更新されない (6287040) 27

ブラウザインタフェースで OS リソースの健全性ステータスが更新されない
(6291223) 28

ジョブステータスの「実行中」または「完了」が紛らわしい (6299790) 28

Linux サーバーで、ファイルシステム監視が ext3 ファイルシステムでしか機能
しない (6308686) 29

OS リソースの健全性監視で、最小更新間隔の 5 分が適用される (6311946) 29

ファイルシステムデバイス名が 20 文字を超えると、OS 監視機能のインストール
がハングアップする (6317401) 29

一部ネットワークで、hostinstall.pl が正しく生成されず、管理サポート機
能が機能しない (6317747) 30

キューにあって、実行中でないジョブが、「ジョブの詳細」で「未開始」と表示
される (6318398) 30

各言語対応に関する問題点 31

N1 System Manager が UTF-8 以外のロケールで動作している場合、ASCII 以外の
文字を含むオブジェクトで文字が化けて表示される (6231209) 31

Solaris OS プロファイルの作成では、ウィザードで ja_JP.EUC_JP 言語を選択し
てはならない (6242643) 31

英語ロケールでないにもかかわらず、ブラウザインタフェースで「ヘルプ」ボタ
ンをクリックすると、コマンド行区画に英語が表示される (6258283) 32

ASCII 以外の文字を含む OS ディストリビューション名が正しく表示されない
(6292702) 32

ASCII 以外の文字を含むファームウェア名を持つ ALOM ファームウェアをインス
トールできない (6297238) 32

Solaris 管理サーバーで n1sh コマンドに対して国際化機能がサポートされない
(6297808) 32

はじめに

『Sun N1 System Manager 1.1 ご使用にあたって』には、今回の Sun N1 System Manager 1.1 リリースの直前まで判明していなかった注意点や問題点に関する詳細情報が含まれています。

対象読者

本書は、N1 System Manager ソフトウェアおよびハードウェアのインストールまたはアップグレードを担当しているシステム管理者、および N1 System Manager のユーザーを対象としています。

関連マニユアル

- 『Sun N1 System Manager 1.1 の概要』
 - 『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』
 - 『Sun N1 System Manager 1.1 インストールおよび構成ガイド』
 - 『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』
 - 『Sun N1 System Manager 1.1 コマンド行レファレンスマニユアル』
 - ハードウェアマニユアル
- <http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/>

ドキュメント、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL	説明
マニュアル	http://jp.sun.com/documentation/	PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。
サポートおよび トレーニング	http://jp.sun.com/support/ http://jp.sun.com/training/	技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
<code>AaBbCc123</code>	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
<code>AaBbCc123</code>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>Password:</code>
<i><code>AaBbCc123</code></i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

コマンド例のシェルプロンプト

以下の表に、C シェル、Bourne シェル、および Korn シェルのデフォルトのシステムプロンプト、およびスーパーユーザーのプロンプトを紹介します。

表 P-2 シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
C シェル	machine_name%
C シェルのスーパーユーザー	machine_name#
Bourne シェルおよび Korn シェル	\$
Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー	#

第 1 章

Sun N1 System Manager 1.1 の問題点

この章では、Sun N1™ System Manager 1.1 で判明している問題について説明します。

機能およびソフトウェアのサポートについて

この節では、N1 System Manager 1.1 リリースでサポートされていない機能とソフトウェアを示します。

- N1 System Manager 製品は、英語と日本語にのみ対応しています。ブラウザインタフェースとコマンド行のヘルプは、英語だけです。
- create update コマンドでは、プロビジョニング可能なサーバーにインストールする OS の種類として次の OS が示されますが、現在、N1 System Manager では、これらの OS はサポートしていません。
 - Red Hat Enterprise Linux WS 3.0
 - Red Hat Enterprise Linux WS 3.0、64 ビット
 - Red Hat Enterprise Linux WS 4.0
 - Red Hat Enterprise Linux WS 4.0、64 ビット

Sun N1 System Manager 1.1 における ジョブ照会の動作

N1 System Manager では、ジョブの種類ごとに重みが関連付けられます。重みは、システムリソースに対してジョブが生む負荷を反映しています。システムにかけることができる負荷総量に対するグローバル制限もあります。次の表は、各種ジョブ (ユーザーレベル) の重みをまとめています。最大許容負荷は 1000 です。

表 1-1 ジョブの重み値

作業	重み
OS 配備	500
パッケージ配備	500
パッケージのアンインストール	500
検出	200
ファームウェアの配備	500
リモートコマンドの実行	200
ジョブの削除	400
OS の作成	1000
サーバーのリセット	200
サーバーの電源オフ	200
サーバーの電源オン	200
サーバーの情報更新	200
サーバー機能の設定	200
サーバーの削除	100
サーバーの追加	100

負荷総量は、実行しているすべてのジョブの負荷の合計です。システムは、次の時点で現在の負荷総量と最大許容負荷を比較します。

- 新しいジョブをキューに入れたあと
- ジョブの実行を完了または停止したあと

現在の負荷総量と最大許容負荷との間に十分な差があり、ジョブキューの先頭にあるジョブを処理できる状態の場合、そのジョブは実行中の状態に格上げされ、そうでない場合は、待ち状態のままになります。システム上で同時に実行可能なジョブの組み合わせは、現在の負荷総量によって決まります。

たとえば OS 配備のジョブは、2 つだけ同時に実行でき ($500 + 500 \leq 1000$)、OS 配備のジョブが 1 つの場合は、2 つのサーバー電源オフのジョブを同時に実行できません ($500 + 200 + 200 \leq 1000$)。

ISO ファイルからの SUSE Linux Enterprise Server 9 SP1 OS ディストリ ビューションのコピー

管理サーバーへの SLES 9 SP1 OS ディストリビューションのコピーは、次の手順で行います。

directory の部分は、SLES9 SP1 ISO イメージがあるディレクトリの名前に置き換えてください。

1. SLES 9 ディストリビューションをコピーします。

```
# nlsh create os sles9ul file  
/directory/SLES-9-i386-RC5-CD1.iso,/directory/SLES-9-i386-RC5-CD2.iso,  
/directory/SLES-9-i386-RC5-CD3.iso,/directory/SLES-9-i386-RC5-CD4.iso,  
/directory/SLES-9-i386-RC5-CD5.iso,/directory/SLES-9-i386-RC5-CD6.iso
```

注 - OS の作成コマンドが完了するのを待って、次の手順に進みます。

2. SLES 9 Update 1 ディストリビューションをコピーします。

```
# nlsh create os sles9ul file  
directory/SLES-9-SP-1-i386-RC5-CD1.iso,directory/SLES9/SLES-9-SP-1-i386-RC5-CD2.iso,  
directory/SLES-9-SP-1-i386-RC5-CD3.iso
```

文書の記述訂正

この節では、判明している文書の誤りについて説明します。

コマンド行のヘルプ

create osprofile のヘルプ

デフォルトディストリビューショングループの一覧に誤りがあります。Solaris プロファイルにある Core は、正しくは Entire Distribution plus OEM Support です。Red Hat プロファイルにある Base は、正しくは Everything です。

delete os のヘルプ

OS ディストリビューションは、プロビジョニング可能なサーバーに配備されていても、削除できます。ただし、関係している OS プロファイルをすべて削除してからでないと、OS ディストリビューションは削除できません。

delete osprofile のヘルプ

OS プロファイルは、プロビジョニング可能なサーバーに配備されていても、削除できます。

show os コマンドのヘルプ

SUSE LINUX Enterprise Server 9 の type 値が無効です。sles9 ではなく、suse です。

サイト計画の手引き

この節では、『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の記述の誤りをまとめています。

管理サーバーの接続に関する節の説明は、「管理ネットワーク、プロビジョニングネットワーク、データネットワークを別々にした構成」にのみ該当

最後の注を含めて、『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の「管理サーバーの接続」の説明は、『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の「管理ネットワーク、プロビジョニングネットワーク、データネットワークを別々にした構成」の最初の構成例にしか該当しません。接続情報については他の構成例を参照してください。

「プロビジョニングネットワークとデータネットワークを結合し、管理ネットワークを別にした構成」および「プロビジョニングネットワーク、データネットワーク、管理ネットワークを結合した構成」

『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の「プロビジョニングネットワークとデータネットワークを結合し、管理ネットワークを別にした構成」および『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の「プロビジョニングネットワーク、データネットワーク、管理ネットワークを結合した構成」の注意書きは、正しくは次のとおりです。



注意 – データネットワーク上での DHCP サービスは、N1 System Manager の DHCP サービスのみである必要があります。

管理ガイド

この節では、『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』で判明している記述の誤りをまとめています。

N1 System Manager のデータベースおよび構成ファイルの復元

『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「N1 System Manager のデータベースおよび構成ファイルを復元する」の手順では、その手順を始める前に、交換用の管理サーバーにオペレーティングシステムと N1 System Manager ソフトウェアをインストールする必要があることが、明確に記述されていません。詳細は、『Sun N1 System Manager 1.1 サイト計画の手引き』の第 3 章「管理サーバーでの OS のインストールと設定」および『Sun N1 System Manager 1.1 インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

工場出荷時のデフォルトポーリング間隔値に誤りがある

『Sun N1 System Manager 1.1 管理ガイド』の「監視構成ファイルでのポーリング間隔の変更」という節にある、表 5-3「デフォルトポーリング間隔の出荷時設定」に示されている工場出荷時のデフォルトのポーリング間隔値は、次のようになります。

ハードウェアの健全性	120 秒
OS リソース	120 秒
ネットワークの到達可能性	60 秒

工場出荷時のデフォルトのポーリング間隔は 600 秒です。

ハードウェアの健全性	600 秒
OS リソース	600 秒
ネットワークの到達可能性	600 秒

N1 System Manager のインストールに関する問題点

この節では、N1 System Manager のインストールに関して判明している問題点をまとめています。

Sun Fire X4100 および X4200 サーバーへの N1 System Manager のインストールが失敗することがある (6284696)

N1 System Manager の実行が中断されて再起動されると、手順 5 の「Install OS provisioning components」で N1 System Manager のインストールが失敗することがあります。この問題が発生した場合は、その後の N1 System Manager のアンインストール、再インストールが失敗します。

最初のインストール失敗のあと、インストールログファイル
/var/tmp/installer.log.latest には以下のメッセージが含まれます。


```

Installing Master Server ...
Error! Missing file (looked for /opt/SUNWnlsp
  /N1_Grid_Service_Provisioning_System_5.1
  /server/postgres/postgresql.conf.in)!
print() on closed filehandle GEN0 at
  /usr/perl5/5.8.4/lib/i86pc-solaris-64int/IO/Handle.pm line 399.
SPS install failed with exit status: 256
-----

      2k. Which port should Postgres listen on?
      (default: 5434) [1024-65535] spawn id(3) is not a tty. Not changing mode
      at /usr/perl5/site_perl/5.8.4/Expect.pm line 375.
admin
admin
admin

      ** Invalid Input. Enter a numeric value for the port number.

      2k. Which port should Postgres listen on?
      (default: 5434) [1024-65535] spawn id(3) is not a tty. Not changing mode
      at /usr/perl5/site_perl/5.8.4/Expect.pm line 375.
admin
admin
admin

      ** Invalid Input. Enter a numeric value for the port number.

      2k. Which port should Postgres listen on?
      (default: 5434) [1024-65535

```

N1 System Manager ソフトウェアをアンインストールして再インストールすると、インストールログには次のメッセージが含まれます。

```

Error! Failed to initialize the database (exit value was 1).
Exiting..
print() on closed filehandle GEN0 at /usr/lib/perl5/5.8.0
  /i386-linux-thread-multi/IO/Handle.pm line 395.
SPS install failed with exit status: 256

```

回避策: 管理サーバー にインストールされているオペレーティングシステムに従って、適切な回避手順をとってください。インストールエラーの発生具合によっては、手順中の作業が正しく完了しないことがあります。その場合は、次の手順に進んでください。

Solaris がインストールされている Sun Fire X4100 または X4200 管理サーバー の場合:

1. サーバーとエージェントを停止します。

```

# su - nlgsp -c "/opt/SUNWnlsp/N1_Service_Provisioning_System_5.1/server/bin/cr_server stop"
# su - nlgsp -c "/opt/SUNWnlsp/N1_Service_Provisioning_System/agent/bin/cr_agent stop"

```

2. サービスプロビジョニングを手動でアンインストールします。

```

# /opt/SUNWnlsp/N1_Service_Provisioning_System_5.1/cli/bin/cr_uninstall_cli.sh
# /opt/SUNWnlsp/N1_Service_Provisioning_System_5.1/server/bin/cr_uninstall_ms.sh

```

3. 次のパッケージを削除します。

```

SUNWspsc1
SUNWspsms
SUNWspsm1

# pkgrm SUNWspsc1
# pkgrm SUNWspsms
# pkgrm SUNWspsc1

```

「Do you want to remove this package? [y,n,?,q]」というプロンプトで **y** を入力します。pkgrm: ERROR: no package associated with SUNWspsc1 というメッセージが表示された場合、そのパッケージは手順 2 ですですに削除されています。パッケージの削除を続けてください。

4. サービスプロビジョニングディレクトリとファイルを削除します。

```

# cd /
# rm -rf /opt/SUNWnlsp/
# rm /nlgc-setup/sps/state
# rm /nlgc-setup/state/0installSPS.pl.state

```

5. 管理サーバー を再起動して、N1 System Manager ソフトウェアをインストールします。

Linux がインストールされている Sun Fire X4100 または X4200 管理サーバー の場合:

1. サーバーとエージェントを停止します。

```

# su - nlgsps -c "/opt/sun/N1_Service_Provisioning_System_5.1/server/bin/cr_server stop"
# su - nlgsps -c "/opt/sun/N1_Service_Provisioning_System/agent/bin/cr_agent stop"

```

2. サービスプロビジョニングディレクトリとファイルを削除します。

```

# cd /
# rm -rf /opt/sun/N1_Grid_Service_Provisioning_System_5.1
# rm -rf /opt/sun/N1_Grid_Service_Provisioning_System
# rm -rf /opt/sun/N1_Service_Provisioning_System
# rm -rf /opt/sun/N1_Service_Provisioning_System_5.1
# rm /nlgc-setup/sps/state
# rm /nlgc-setup/state/0installSPS.pl.state

```

3. 管理サーバー を再起動して、N1 System Manager ソフトウェアをインストールします。

外付け DVD-ROM による OS ディストリビューションの作成に失敗する (6299514)

外付けの DVD-ROM を使用した OS ディストリビューションの作成が失敗することがあります。これは、ネットワーク応答時間がさらに長くなり、ジョブがタイムアウトするためです。

回避策: 管理サーバー で n1smconfig コマンドを使用し、ジョブのタイムアウト値を最長値の 3 時間にしてください。

セキュリティに関する問題点

この節では、セキュリティに関して判明している問題点をまとめています。

ブラウザインタフェースセッションがタイムアウトしない (6222506)

イベントの更新フレームは 10 秒おきに再読み込みされ、それによってユーザーのセッションのタイムスタンプが更新されます。このため、ブラウザインタフェースセッションがタイムアウトしません。

回避策: ブラウザインタフェースを使い終えたら、明示的にログアウトしてください。

検出に関する問題点

この節では、検出に関して判明している問題点をまとめています。

Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーでの、「ドライバを検出できません」という紛らわしいエラーメッセージが検出される (6299780)

Sun Fire X4100 および Sun Fire X4200 サーバーが検出に失敗したときに、「ドライバを検出できません」という紛らわしいエラーメッセージが返されます。このエラーは、管理サーバーがサーバーとの SSH 接続を作成できないために発生します。

回避策: `ssh` を使用してシステムに直接アクセスすることによって SSH 資格を確認し、必要に応じて資格を更新してください。

SSH 資格が構成されていて、IPMI 資格が構成されていないと、Sun Fire V20z や V40z サーバーの検出に失敗する (6307349)

Sun Fire V20z あるいは V40z サーバーの SSH 資格が構成されていて、IPMI 資格が構成されていないと、そのサーバーの検出に失敗します。この問題が発生する可能性があるのは、次のような場合です。

- すべての SP ファームウェアリビジョン - サーバーに SSH 資格が構成されていただけで、IPMI 資格は構成されていなかった。
- ファームウェアリビジョン 2.3.0.11 以降 - SSH および IPMI 資格ともに構成されていたが、`ipmi disable channel lan` コマンドを使用し、サービスプロセッサの IPMI が手動で無効にされていた。このコマンドは、IPMI 資格を構成解除します。以前のファームウェアリビジョンでは、発生しませんでした。

この問題が発生すると、次のエラーメッセージが表示されます。

■ 検出ジョブ

```
Errors
Results
Result 1:
Server: 10.0.3.12
Status: -3
Message: An exception occurred trying to access 10.0.3.12.
Please refer to the log file for more information.
```

■ syslog ファイル

```
Aug 25 17:43:26 lab126-rh-n1sm cacao[9720]:
v20z.V20zAuthService.authenticate : IPMI channel enabling failed.
IPMI user account needs to be initialized.
```

回避策: 次の手順で Sun Fire V20z または Sun Fire V40z サーバーで IPMI を有効にして、検出をやり直してください。

1. サービスプロセッサにログインします。
2. IPMI を有効にします。

```
sp$ ipmi enable channel lan
```

3. パスワードの入力を求められたら、入力します。

OS プロビジョニングに関する問題点

この節では、OS プロビジョニング (配備) に関して判明している問題点をまとめています。

Red Hat や SUSE Linux を配備できない

ネットワークスイッチでのスパニングツリー設定に関する既知の問題が原因で、Red Hat や SUSE Linux の OS 配備がタイムアウトしたり、停止したりすることがあります。

回避策: 管理サーバーと対象のサーバーのプロビジョニングネットワーク接続に使用されているスイッチまたはスイッチポート上のスパニングツリーを無効にしてください。

Red Hat Linux 3.0 Update 2 の OS 配備が停止して対話モードになることがある

Red Hat Linux 3.0 Update 2 の OS 配備が、タイムアウトが原因で停止し、対話モードになることがあります。

回避策: Update 3 以降を使用してください。

「OS プロファイルのロード」ウィザードの「サーバー以外」フィールドが機能しない (6298874)

ブラウザインタフェースで「OS プロファイルのロード」ウィザードを使用し、プロビジョニング対象から除外するサーバーを入力するときに、「サーバー以外」フィールドが機能しません。この機能は、ブラウザインタフェースから使用できません。

回避策: コマンド行インタフェースから `load server` コマンドを使用してください。

ホスト名に関して「OS プロファイルのロード」ウィザードが明瞭でない (6308375)

「OS プロファイルのロード」ウィザードで、デフォルト設定を選択しなかった時に、ユーザーがホスト名と構成を 2 回入力する必要がありますが、これについて明確な説明がありません。

ウィザードでは、2 つの手順で、ユーザーはホスト名の入力が求められます。

- 最初のプロンプトでは、インストール中に使用されるホスト名の入力が求められます。
- 2 つめのプロンプトでは、インストールが完了したあとで使用するホスト名の入力が求められます。

これらの値は同じであっても、違っていてもかまいません。

SPARC マシンに N1 System Manager をインストールしたあとのマシンの再起動で DHCP が機能しない (6314895)

Solaris 10 より前のバージョンの Solaris では、`/usr/sbin/` に `dhcpcd` デーモンがインストールされましたが、Solaris 10 では、`/usr/local/sbin/` に `dhcpcd` デーモンがインストールされます。このため、マシンの再起動、または `dhcpcd` デーモンの終了を行うと、`dhcpcd` デーモンが再起動できなくなります。

回避策: Solaris 管理サーバーを再起動するか、停止した場合は、その都度、起動後に、その管理サーバーで次のコマンドを入力する必要があります。

```
/opt/SUNWscs/sbin/s_dhcp_config.pl -e -I interface
```

インタフェースに関する問題

この節では、ブラウザインタフェースおよびコマンド行インタフェースに関して判明している問題点をまとめています。

サーバー間で管理 IP アドレスを交換したときのサーバー詳細が不正 (6196399)

検出されたサーバー間で管理 IP アドレスを交換すると、IP アドレスを交換したサーバーの詳細情報が、その 2 つのサーバー間で入れ替わって表示されます。たとえばサーバー A と B の間で管理 IP アドレスを交換した場合、「show server A」でサーバー B の情報、「show server B」でサーバー A の情報が表示されます。

回避策: IP アドレスを交換したサーバーを両方とも削除し、再検出してください。これにより、サーバーに関するユーザー提供の情報は、すべて失われます。

「戻る」ボタンを使用すると、ブラウザインタフェースの同期が失われる (6215298)

ブラウザインタフェースが使用するフレームは同期をとっています。そうしたフレームの 1 つでブラウザの「戻る」ボタンをクリックすると、フレームの同期が失われることがあります。

回避策: F5 キーを押すか、ページを更新して、フレームの同期をとってください。

Solaris 管理サーバーから Solaris OS ディストリビューションをロードすると、「prom_panic」エラーになる (6307571)

Solaris 管理サーバーからプロビジョニング可能なサーバーに Solaris OS ディストリビューションをロードしようとする、ネットワークブートプロセスの起動後ただちに、`prom_panic: Could not mount filesystem` というエラーにより、ロードに失敗します。このエラーメッセージが表示されたあと、プロビジョニング可能なサーバーはブートデバッグモードになります。

回避策: 次を入力して、管理サーバー で NFS サービスをいったん停止し、再開してください。

```
# /etc/init.d/nfs.server stop  
# /etc/init.d/nfs.server start
```

コンソールウィンドウにシリアルコンソール メッセージの最後の行が表示されない (6308148)

N1 System Manager ブラウザインタフェースから起動したシリアルコンソールの最後の行が、シリアルコンソールウィンドウに表示されません。

回避策: Enter キーまたは Return キーを押すと、最後の行が表示されます。

シリアルコンソールアクセスで SSHv1 のみサポート される (6309107)

Web ブラウザインタフェースからのシリアルコンソールアクセスに使用されるアプレットは、N1 System Manager 管理サーバー に通信を返す場合にのみ SSHv1 を使用します。この機能を使用するには、N1 System Manager 管理サーバー 側で SSHv1 が使用可能である必要があります。

回避策: SSHv1 およびシリアルコンソールの Web ブラウザインタフェースを使用可能にしない場合は、n1sh コマンド行インタフェースからシリアルコンソール機能を利用できます。

インストールされている Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4.0 Update 1 OS がサーバー表に正しく表示 されない (6309253)

show server コマンドやブラウザインタフェースのサーバー表で、Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4.0 Update 1 OS がインストールされているプロビジョニング可能なサーバーを表示すると、バージョンが誤って表示されます。たとえば Linux RedHat 4ES U1 が Linux RedHat 4ES U4 と表示されます。

回避策: 回避策はありません。

プライベート管理ネットワーク上で、ブラウザイ ンタフェースの Web コンソール機能が使用できな い (6316139)

Web コンソール機能を使用するには、Web コンソールのホストである対象のシステムの管理ネットワークにブラウザクライアントがアクセスする必要があります。

回避策: 対象のシステムの管理ネットワークにアクセスできるホストで、ブラウザインタフェースを実行してください。

Sun Fire X4100 や Sun Fire X4200 サーバーのシリアルコンソール機能で断続的に問題が発生する (6316175)

Sun Fire X4100 または Sun Fire X4200 サーバーで、シリアルコンソール機能をコマンド行 (`connect server` コマンド) またはブラウザインタフェースで使用したときに、問題が発生します。

回避策: シリアルコンソールを実行し直してください。

管理サーバーの再起動後、サーバー表の表示に非常に時間がかかる (6315022)

管理サーバーの再起動後にコマンド行 (`show server` コマンド) またはブラウザインタフェースを使用すると、すべてのサーバーの一覧表示に少なくとも 5 分の時間がかかります。これは、サーバーの表示を初めて行うときにのみ発生します。

回避策: 回避策はありません。

シリアルコンソール機能を使用するには、Java™ Plugin 1.2 以降がインストールされている必要がある (6315615)

ブラウザインタフェースの「サーバーの詳細」ページからシリアルコンソール機能を利用するには、ブラウザを実行するシステムに Java Plugin 1.2 以降がインストールされている必要があります。N1 System Manager でサポートされているすべてのブラウザに、このインストールが行われているわけではありません。

ファームウェア更新に関する問題点

この節では、ファームウェアの更新に関して判明している問題点をまとめています。

N1 System Manager で、互換性のないファームウェアをデュアルコアの Sun Fire V20z または Sun Fire V40z サーバーへ配備できる (6296404)

デュアルコアの Sun Fire V20z および Sun Fire V40z サーバーのファームウェアはリビジョン 2.3.x 以降である必要があります。N1 System Manager は、2.3.x より前のリビジョンのファームウェアの配備を禁止しません。2.3.x より前のリビジョンのファームウェアを配備すると、サーバーのサービスプロセッサで問題が発生することがあります。

回避策: 更新する前にファームウェアのリビジョンをしっかりと確認してください。

OS アップデートに関する問題点

Solaris の OS アップデートに失敗すると、以降の OS アップデートができないことがある (6310032)

Solaris OS アップデートのインストールに失敗すると、インストールに使用された `admin` ファイルのコピーが、プロビジョニング可能なサーバー から削除されません。失敗の原因が `admin` ファイルが壊れているか無効である場合、以降の OS アップデートのインストールで問題の `admin` ファイルが置き換えられず、失敗が繰り返されることがあります。

回避策: プロビジョニング可能なサーバーの `/tmp` ディレクトリから `package-filename.admin` ファイルを削除し、OS アップデートのインストールをやり直してください。OS アップデート用にカスタマイズした `admin` ファイルを使用する場合は、そのファイルが有効であることを確認してください。

ファイル名とパッケージ名が異なると、`admin` ファイルを必要とする Solaris アップデートをアンインストールできない (6313778)

パッケージの名前と、そのパッケージをインストールするファイルの名前が異なり、そのパッケージのインストールとアンインストールに `admin` ファイルを使用する必要がある場合、OS アップデートを使用して、対象ホストにパッケージをインストールすることはできます。しかし、その後、N1 System Manager から OS アップデート (パッケージ) をアンインストールすることはできません。

回避策: 次のいずれかの方法で、不適切な名前のパッケージを削除できます。

- N1 System Manager を使用してパッケージをインストールする前にパッケージの名前に合わせてパッケージファイル名を変更する。
- パッケージ名に合わせて、プロビジョニング可能なサーバーの /tmp ディレクトリ内の admin ファイル名を変更する。たとえば *package-filename .admin* を *package-name .admin* に変更します。
- pkgrm を使用し、プロビジョニング可能なサーバー から手動でパッケージを削除する。

監視に関する問題点

指定した IP の古い SSH キーエントリがあるために OS 監視を初期化できない (6208006)

プロビジョニング可能なサーバーへの再配備で、そのサーバーの IP アドレスが前回配備時に割り当てられていた IP アドレスと同じ場合、OS 監視サポートを初期化することができないことがあります。IpUnreachableException が生成されますが、これは、/.ssh/known_hosts ファイルに元の配備 IP アドレスが含まれているためです。

回避策: スーパーユーザーとして管理サーバーにログインし、/.ssh/known_hosts ファイルをエディタで開いてサーバーの ssh キーエントリを削除するか、/.ssh/known_hosts ファイル自体を削除してください。

アップデートジョブ作成のエラーメッセージに十分な情報が含まれていない (6230630)

Solaris OS がインストールされたサーバーに Red Hat Linux アップデートをロードしようとする、Sun N1 System Manager によってアップデートジョブの開始が試みられますが、失敗します。

回避策: インストールされている OS とそのアップデートに互換性があることを確認してください。プロビジョニング可能なサーバーの OS は show server コマンド、OS アップデートの OS の種類は show update コマンドで、それぞれ確認できます。

show server コマンドで unmonitored や unknown フィルタを使用できない (6240297)

サーバーの初期化 (OS リソースの監視) 時に unmonitored や unknown フィルタ値が機能しません。具体的には、次のコマンドを使用できません。

```
N1-ok> show server utilization=unmonitored
N1-ok> show server utilization=unknown
```

回避策: 回避策はありません。

ハードウェアの健全性監視値の Unmonitored で絞り込みを行えない (6240368)

show server health=unmonitored コマンドを実行すると、監視無効状態のサーバーがあっても、サーバー表が返されません。

回避策: 回避策はありません。

通知の説明でアポストロフィを使用できない (6242713)

説明属性でアポストロフィを使用すると、create notification コマンドで問題が発生します。

回避策: アポストロフィを別のアポストロフィでエスケープするか (例: Paul"s Notification) か、説明でアポストロフィを使用しないでください。

ジョブの完了後も、ジョブの実行中を表す時計アイコンが残る (6262603)

すべてのジョブの実行が完了しても、「表示の選択」セクション内のサーバーの横に、時計アイコンが表示され続けることがあります。これは、更新機能の問題です。

回避策: 「更新」ボタンをクリックするか、F5 キーを押すことによって、ブラウザインタフェースを更新してください。

OS リソースの健全性ステータスのポーリングが、ユーザーの指定したポーリング値に従って更新されない (6287040)

ユーザー指定のポーリング値が 10 分未満でも、プロビジョニング可能なサーバーで OS 監視がいったん停止され、再開されると、10 分経過するまで OS のステータスは更新されません。

回避策: 回避策はありません。

ブラウザインタフェースで OS リソースの健全性ステータスが更新されない (6291223)

プロビジョニング可能なサーバーのネットワークインタフェースが使用できない場合、ブラウザインタフェースの OS リソースの健全性は、次の更新で「アクセス不能」に変わるべきですが、現在は、ステータスは変わりません。

N1 System Manager がインストールされている場合、デフォルトでは、ネットワークおよび更新の間隔は 10 分に設定されます。ネットワークと更新の間隔が異なる場合、OS リソースの健全性とネットワークステータスは異なる間隔で更新されます。このため、プロビジョニング可能なサーバーのデータネットワークインタフェースが到達不可能な場合、表示される結果は異なり、ネットワークのポーリング間隔は、OS リソースの更新間隔より短くなります。

ネットワークステータスは、ブラウザインタフェースの「すべてのサーバー」画面より、「サーバーの詳細」画面の方が先に更新されます。こうした違いがあるため、「すべてのサーバー」画面の OS リソースの健全性ステータスは、次の OS リソースの更新時 (デフォルトでは 10 分おき) に「アクセス不能」に変わります。10 minutes).

回避策: OS リソースの健全性ステータスを表示する場合は、`show server server name` コマンドを使用してください。

ジョブステータスの「実行中」または「完了」が紛らわしい (6299790)

OS 作成ジョブの実行中にシステムの空きディスク領域が不足すると、ジョブステータスとして「実行中」が表示されます。その後、空きディスク領域ができて、N1 System Manager が再起動されると、OS 作成ジョブが失敗したにもかかわらず、ジョブステータスが「完了」に変わります。

注 - 問題のジョブのステータスは「完了」のままで、訂正できません。

回避策:

1. 少なくとも 3G バイトの空きディスク領域を確保します。
2. いったん N1 System Manager を停止して、再起動します。
3. OS 作成のジョブを再度実行します。

Linux サーバーで、ファイルシステム監視が ext3 ファイルシステムでしか機能しない (6308686)

適切な OS 監視サポートが追加されているにもかかわらず、ext3 以外のファイルシステムがあるプロビジョニング可能な Linux サーバーで、ファイルシステム監視が機能しません。N1 System Manager では、Linux サーバーの ext3 ファイルシステムのみ監視できます。

回避策: ext3 ファイルシステムを作成する OS プロファイルを使用して、プロビジョニング可能なサーバーを再インストールしてください。

OS リソースの健全性監視で、最小更新間隔の 5 分が適用される (6311946)

OS 健全性監視エージェントは、5 分おきにキャッシュに監視データを書き込みます。このため、OS リソースの更新間隔を 5 分未満に設定すると、既存のキャッシュデータが読み出されて、見た目には変化がないことがあり、報告された監視データに誤った結論が出されることがあります。

回避策: OS リソースの監視間隔は、最低でも 5 分に設定してください。

ファイルシステムデバイス名が 20 文字を超えると、OS 監視機能のインストールがハングアップする (6317401)

プロビジョニング可能なサーバー上のファイルシステムデバイス名の長さが 20 文字を超えると、OS 監視サポートのインストールジョブがタイムアウトして失敗します。この場合、OS リソース監視は使用できません。この問題は、オペレーティングシステムの論理ボリューム管理 (LVM) が使用されている プロビジョニング可能なサーバー でよく起きます。

プロビジョニング可能なサーバー に基本管理機能を追加することはできますが、OS 監視機能は追加できません。

回避策: ファイルシステムデバイス名の長さは必ず 20 文字以内にしてください。

一部ネットワークで、hostinstall.pl が正しく生成されず、管理サポート機能が機能しない (6317747)

プロビジョニングネットワークで x0.0.0.y (10.0.0.34) の IP アドレス形式が使用されていて、ホスト名の解決に失敗すると、hostinstall.pl スクリプトが正しく生成されず、スクリプトが管理サーバーにアクセスして、プロビジョニング可能なサーバーを構成できなくなります。この問題は、`add server server feature osmonitor` と `add server server feature basemanagement` コマンドの両方に影響します。

回避策: 管理サーバー上の hostinstall.pl スクリプトに手動で x0.0.0.y 形式の IP を追加してください。Red Hat 管理サーバーの場合は、`/var/opt/sun/scs/web/pub/hostinstall.pl` ファイルを編集します。Solaris 管理サーバーの場合は、`/var/opt/SUNWscs/web/pub/hostinstall.pl` ファイルを編集します。

これらのファイルの 33 行目は次のようになっています。

```
my @CSHostAddrs = ( 'ns1m', '172.20.48.120' );
```

このリストに IP アドレスを追加します。

```
my @CSHostAddrs = ( 'ns1m', '172.20.48.120', '10.0.0.1' );
```

キューにあって、実行中でないジョブが、 「ジョブの詳細」で「未開始」と表示される (6318398)

全体のジョブ負荷が大きすぎて、キュー内の次のジョブを実行できない場合、「ジョブの詳細」画面には、実行中のジョブのステータスが「実行中」、その他のジョブのステータスは「未開始」と表示されます。キュー内のジョブは、1 つまたは複数の実行中のジョブが完了し、全体のジョブ負荷が小さくなって、キュー内の次のジョブを実行できる状態になったあとで実行されます。

詳細は、[12 ページの「Sun N1 System Manager 1.1 におけるジョブ照会の動作」](#)を参照してください。

各言語対応に関する問題点

N1 System Manager が UTF-8 以外のロケールで動作している場合、ASCII 以外の文字を含むオブジェクトで文字が化けて表示される (6231209)

N1 System Manager を次のいずれかの方法で起動すると、N1 System Manager を使って作成された ASCII 以外の文字を含むオブジェクトで文字が化けて表示されます。

- UTF-8 以外のロケールで `/etc/init.d/nlsmininit` コマンドを実行する
- UTF-8 以外のロケールで管理サーバーを再起動する

回避策: 次の 2 通りの回避策があります。

1. 一時的な回避策: LANG 環境変数に UTF8 ロケールを設定し、N1 System Manager を再起動します。次に例を示します。

```
# export LANG en_US.UTF-8
# /etc/init.d/nlsmininit stop
# /etc/init.d/nlsmininit start
```

2. 恒久的な回避策:

- Solaris 管理サーバーの場合

`/etc/default/init` ファイルをエディタで開き、LANG 値を `en_US.UTF-8` に変更します。

- Linux 管理サーバーの場合

`/etc/sysconfig/i18n` をエディタで開き、LANG 値を `en_US.UTF-8` に変更します。

Solaris OS プロファイルの作成では、ウィザードで `ja_JP.EUC_JP` 言語を選択してはならない (6242643)

「OS プロファイルの作成」ウィザードでは、`ja_JP.EUC_JP` が選択項目として間違っって表示されます。`ja_JP.EUC_JP` を選択すると、OS のロードプロセスで問題が発生します。

回避策:

1. OS プロファイルの作成では、次に示すように `ja_JP.UTF-8` を指定し、プロビジョニング可能なサーバーに配備します。

N1-ok> **set osprofile osprofile_name language=ja_JP.UTF-8**

2. `load server` コマンドまたはブラウザインタフェースの「OS プロファイルのロード」ウィザードを使用して、プロファイルを配備します。
3. スーパーユーザーとしてプロビジョニング可能なサーバーにログインし、`/etc/default/init` ファイルをエディタで開きます。
4. `ja_JP.UTF-8` の部分を `ja_JP.eucJP` に置き換え、保存して、`/etc/default/init` ファイルを閉じます。

英語ロケールでないにもかかわらず、ブラウザインタフェースで「ヘルプ」ボタンをクリックすると、コマンド行区画に英語が表示される (6258283)

各国語対応された環境で「ヘルプ」ボタンをクリックすると、ブラウザインタフェースのコマンド行区画で、タブ補完テキスト以外のすべてのテキストが英語で表示されます。

回避策: ブラウザの「再読み込み」ボタンをクリックすることによって、ブラウザインタフェースを更新してください。

ASCII 以外の文字を含む OS ディストリビューション名が正しく表示されない (6292702)

`create os` コマンドで ASCII 以外の文字を含む OS ディストリビューション名を指定した場合、`show os` コマンドで、その OS ディストリビューション名が正しく表示されません。

ASCII 以外の文字を含むファームウェア名を持つ ALOM ファームウェアをインストールできない (6297238)

ALOM ファームウェアの名前が ASCII 以外の場合、`load server` コマンドはその ALOM ファームウェアのインストールに失敗します。

回避策: `set firmware` コマンドを使用して、ファームウェア名を ASCII に変更してください。

Solaris 管理サーバーで `n1sh` コマンドに対して国際化機能がサポートされない (6297808)

デフォルトの Solaris 管理サーバーの Python バージョン (2.3) では、`n1sh` コマンドに対する国際化機能のサポートが十分ではありません。

回避策: Solaris 管理サーバーに Python 2.4 以降をインストールしてください。Python 実行可能ファイルは /usr/bin/python2.4 である必要があります。

